



武内文庫漢籍整理会の開催

著者	萱場 健之
雑誌名	東北大学附属図書館調査研究室年報
号	1
ページ	69-71
発行年	2012-03-30
URL	http://hdl.handle.net/10097/53760

武内文庫漢籍整理会の開催

萱場 健之

平成23年度の協力研究員の委嘱を受けて、平成23年11月より、武内義雄氏旧蔵和漢書の整理に携わるようになった。附属図書館の和漢書整理に係わるのは、平成19年度末の金谷文庫の整理に引き続き2回目となる。

武内義雄氏*1は、支那学第一講座(現中国思想中国哲学専攻分野)の初代教授で、第2代附属図書館長でもあった。前回整理を行った金谷治氏は、武内氏と同郷、同講座の教授で、第4代の附属図書館長も務めたのであるから、師弟の蔵書整理に携わるという希有な経験をするようになった。

しかし、金谷文庫の整理とは大きく異なる点が2点ある。1点目は金谷文庫が漢籍366点2,636冊であったのに対し、武内蔵書は冊数で4倍の1万冊が想定*2されていること。このことは目録整理のための時間が金谷の4倍以上かかるであろうことを予想させる。また一方で、刊年の古い本など、「面白い本」が含まれるのではないかと期待も抱かせる。もう1点は、武内蔵書の受入のための調査時から協力を仰いでいるという、中国思想研究室三浦秀一教授とその学生たちが整理に加わっていることである。私の古典籍整理は、あくまでも実務者による整理を念頭に置いたものである。中国史・中国思想・中国文学などの専門家でなくとも、誰でもが古典籍の目録をとれることをモットーにしている。しかし、扱う古典籍の内容に詳しい研究者が整理に加わるということは喜ばしいことである。また、三浦教授により受入作業用のリストが作成されていることから、点数冊数が多いとはいえ、全体の傾向が展望できることも有り難い。

整理の会は平成23年11月9日より毎週1回水曜日の午後にかかれることになった。参加者は、図書目録を担当している7名と、全館から集められ

た古典籍・書誌学に興味・関心のある8名の職員、そして中国思想研究室三浦教授以下4名の合計19名である。参加者の1/3は金谷文庫整理の経験者であったが、残りの2/3が古典籍の整理実務は初めてであったので、初期の6回は書誌学の概説を行った。現代の印刷とは大きく異なる(ほんの百年前まではそれが常識であったのだが)木版本の世界の基本となる用語の解説から初め、今後の目録作成で重要なポイントになる「刊・印・修」について特に丁寧に解説を行った。

平成24年1月になって、いよいよ目録作成の基本データとなるデータシートの作成に入った。手始めに、すべての資料の整理の基本となる、和刻本漢籍から整理を始めた。和刻本漢籍は長澤規矩也氏による詳細な研究がされているので、初心者でも扱いやすい。また、目録の形式や四書分類は、金谷文庫と同様『東京大学総合図書館漢籍目録』に範をとることにした。漢籍に慣れるまでは、題箋から奥付刊記まで、丁寧に見ていくこととしたい。現段階では、タイトルをどこから取るのか、どうやって各館の漢籍目録を読むのかに不慣れな者もあるが、彼らも多くの資料に触れることで徐々に慣れていって欲しいと思っている。この整理で得られた知識は、今後行われる新規の古典籍の受入だけでなく、狩野文庫に代表されるような附属図書館が所蔵する既存の古典籍を扱う場合や、近年の活動が注目される展示会に係わるような場合に、多いに役立つことと思われる。

2月末までに13回の整理会を開催し、52点207冊の整理が終わったが、全体から見れば微々たるものに過ぎない。担当係の計算ではこの整理は平成26年度まで行うという予定になっているが、この先、順調に進むのか、面白い資料が発見されるのか、期待と不安の入り交じるところである。参加者も本務が

優先されるので、毎回全員が参加できるわけでもないことが面はゆいが、当面は現状を維持する他はない。年度が変わると、多少メンバーの入替わりがあるかもしれない。今年度参加できなかった職員にも、興味があればぜひ参加をしてほしい。いつでも歓迎したい。

武内氏の蔵書の全貌を明らかにする目録の作成が、この漢籍整理会の第一の目標である。加えて、私がこれまで宮城県図書館を初め、幾多の機会に経験してきた和漢の古典籍整理で得た知識等を、東北大学図書館職員、中国思想研究室の面々に、余すところなく継承できる機会になれば幸いである。

*1 武内義雄(1886-1966) 東北大学名誉教授。文学博士。三重県出身。京都帝国大学卒業。東北帝国大学教授。帝国学士院会員。1960 年(昭和 35)文化功労者。『老子原始』(1926),『論語之研究』(1939)によって、武内学の文献批判の方法が確立されたといわれる。また『論語』『老子』その他の訳注では厳密な校定を旨とし、そのために多くの日本の古写本を自ら発見し利用した。([金谷治]「日本大百科全書(ニッポニカ)」JapanKnowledge より抄出)

*2 武内文庫は平成 21 年度より受入のための調査、予備整理を行っている。平成 24 年度中の受入完了を予定している。



写真 1: 熱心に教わる図書館職員



写真 2: データシートを作成する図書館職員

漢籍整理会開催記録

回次	開催日	参加者数	整理点数
第1回	平成23年11月9日(水)13:30-15:30	19	
第2回	平成23年11月16日(水)13:30-15:30	14	
第3回	平成23年11月30日(水)13:30-15:30	10	
第4回	平成23年12月7日(水)13:30-15:30	14	
第5回	平成23年12月14日(水)13:30-15:30	16	
第6回	平成23年12月21日(水)13:30-15:30	15	
第7回	平成24年1月10日(火)13:30-15:30	16	
第8回	平成24年1月18日(水)13:30-15:30	18	
第9回	平成24年1月25日(水)13:30-15:30	17	9点61冊
第10回	平成24年2月1日(水)13:30-15:30	16	15点46冊
第11回	平成24年2月8日(水)13:30-15:30	12	6点22冊
第12回	平成24年2月15日(水)13:30-15:30	12	12点33冊
第13回	平成24年2月29日(水)13:30-15:30	14	10点45冊
合計整理点数冊数			

平成23年度武内文庫漢籍整理会参加者

萱場健之（講師），渡邊愛子，志田千恵子，岸上ゆう子，安齋なつ未，五十嵐幸子，斎藤愛子，佐藤優美子（図書情報係），平井圭子（受入係），藤野曜子，高橋八千代，足達彩（閲覧第一係），菊地良直（学術情報支援係），渡部知美（経済図書室），工藤未来（農学分館），小林真理絵（金研図書室），三浦秀一，高橋睦美，豊島ゆう子，金子由佳，井上満奈実（中国思想研究室）

（かやば たけゆき，東北学院大学非常勤講師，
附属図書館協力研究員）